

# 令和3年度 倉敷市立倉敷翔南高等学校 学校評価書

【学校経営目標・計画】

◎社会人として自立するための力(3つの力)をつける				
自分と向き合う力…社会に通用する人間性を養う	自分を高める力…目標実現に必要な学力・挑み続ける力をつける		他者とつながる力…他者とつながり、社会に貢献する力をつける	
1 翔南授業ルールを核とした授業の充実	2 キャリア教育のいっそうの充実	3 特別活動の充実	4 よりよい人間関係づくり、社会貢献（参画）の推進	5 魅力ある学校づくり
・生徒が学びの主体となる「わかる授業」 ・ICT機器等を活用した授業、学びなおしを考えた授業、授業のUD化	・産業社会と人間、インターンシップ、企業研究、STEP等を核とした教科横断的指導 ・キャリアパスポートを活用した継続的指導	・ホームルーム活動、学校行事、委員会活動、生徒会活動等への積極的参加	・ライフスキルトレーニング、UP！等 ・カウンセリングウィーク、アンケート等を中心とした生徒理解 ・地域連携活動、ボランティア活動、就業体験、実習等 ・社会で通用するマナー、コミュニケーション力の育成 ・回復力（復元力）の育成	・新教育課程の準備、周知 ・本校の特色、魅力の発信

4段階評価(A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

担当 (分掌・年次)	評価項目(具体的な計画)	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		総合評価	改善方策
			達成状況	評価	達成状況	評価		
1	教務課	・翔南授業ルールの徹底 ・わかる授業の研究と実践	・生徒に社会人として自立する力をつけるために、翔南授業ルールをすべての授業で徹底する。(翔南授業ルールアンケートにより検証) ・学校自己評価アンケート(生徒)「授業は分かりやすく工夫されている。」 ⇒普通以上の回答を80%(昨年度79%)以上とする。(教職員)「授業公開・授業評価を行い、結果を授業力向上に活かしている。」 ⇒肯定的回答を90%(昨年度97%)以上とする。	・6月の教員対象アンケート結果により、翔南授業ルールはほぼ全ての授業で実践できている。今後も引き続き指導の徹底を図るとともに「わかる授業」の実現を目指した授業改善の推進が必要である。 ・5月のオープンクラスウィークで、互いの授業参観を行った。また、10月にも実施予定である。	B	・12月の生徒への授業アンケートにより、翔南授業ルールの各項目についての「普通」以上の回答は、ほぼ95%を超えている。翔南授業ルールは昨年同様定着していると判断できる。 ＜学校自己評価アンケート＞(肯定的回答) (生徒)「授業は分かりやすく工夫されている」→75%(昨年度比4%減) (教職員)「授業公開・授業評価を行い、結果を授業力向上に活かしている」→92%(昨年度比5%減) ・6月、10月にはオープンクラスウィークで相互の授業参観を行った。	B	・積極的な働きかけ等をさらに行い、「翔南授業ルール」のより一層の定着を図るとともに、「わかる授業」が実践できるよう、授業改善を進める。
	生徒課	・規則やマナーを身につけ、集団の中で思いやりを持った適切な行動がとれる力を育成する。	・学校自己評価アンケート(生徒)「言葉遣いや服装、日常生活のマナーが身につくように指導してくれる」 ⇒肯定的回答を80%(昨年度76%)以上とする。 ・全校集会「社会生活のマナーとして、言葉遣い・挨拶・集団での行動様式の指導ができています」 ⇒肯定的回答を85%(昨年度83%)以上とする。	・年度当初、1年次生に対して学校生活のガイダンスを行った成果が表れ、例年より生活態度が落ち着いている様子である。 ・全校集会では教職員の協力により落ち着いた集会となった。 ・職員室などで先生と会話をするとき、正しい敬語が使えない生徒が多いため、しっかり指導をしていく必要がある。	B	・昨年度より1年生に対して年度当初に学校生活のガイダンスを行っているため、全体的に落ち着いている。 ・全校集会では全ての教職員の協力により集合も早くできて、落ち着いた集会となった。 ＜学校自己評価アンケート＞(肯定的回答) (生徒)「言葉遣いや服装、日常生活のマナーが身につくように指導してくれる」→79%(昨年度比3%増) (教職員)「社会生活のマナーとして、言葉遣い・挨拶・集団での行動様式の指導ができています」→83%(昨年度比2%減) 「全教職員の共通理解に基づいた生徒指導ができています」→85% 昨年度より減だが、教員集団が一体となって指導を行えた。	B	・一般常識やマナーなどを粘り強く、必要と感じたその時々素早く個別に対応・指導していく必要がある。
	1年次	・翔南授業ルールを実践し、規範意識を高める。	・授業準備を完了し、開始時間を迎える。 ・授業の前後できちんと挨拶ができる。 ・校則を意識して学校で生活できている。 ⇒3項目とも年次アンケートにて肯定的回答を70%以上とする。	・開始時間までに準備物と服装が完全にできている生徒は8割程度。教員の声掛けでは素直に従うが、数分かかっている。 ・挨拶はできているが、今後も指導が必要。 ・校則について、喫煙や暴言等で指導もあったが、全体的には意識して学校生活を送っている。	B	＜年次アンケート＞(肯定的回答) 「授業準備を完了し、開始時間を迎える」→98.3% 「授業の前後できちんと挨拶ができる」→86.4% 「校則を意識して学校で生活できている」→91.5% 3項目とも目標を大幅に達成できた。	A	・今後も卒業後に向けて、挨拶や規範意識が身につくように指導していきたい。
	2年次	・翔南授業ルールを実践し、主体的に学ぶ態度を身につける。	・授業前後で、きちんと挨拶ができる。 ・社会に出て通用する礼儀・マナーが身についている。 ・授業で「わかる」ことが増えている。 ⇒3項目とも年次アンケートにて肯定的回答を70%以上とする。	・学校にきちんと登校する生徒が多く、授業前後での挨拶もできている生徒が多い。しかし、まだできていない生徒もいくつかいるので学年全体で雰囲気づくりをしていきたい。 ・インターンシップが実施出来なかったことで社会に出ての実践ができていない。	B	＜年次アンケート＞(肯定的回答) 「授業前後で、きちんと挨拶ができる。」→71% 「社会に出て通用する礼儀・マナーが身についている。」→83% 「授業で「わかる」ことが増えている。」→89% 3項目とも目標を達成できた。	A	・昨年度の目標であった規範意識の項目は今年度も90%前後の肯定的回答であった。 次年度も卒業後を意識して指導していきたい。
	3年次	翔南授業ルールを徹底し、「わかる」体験を通して、自己を分析、律する力を高める。	・授業前後で、きちんと挨拶ができる。 ・これまでに比べて、授業で「わかる」ことが増えている。 ・社会に出て通用する礼儀・マナーが身についた。 ⇒3項目とも年次アンケートにて肯定的回答を80%以上とする。 ⇒個人個人の肯定的回答が向上している(アンケートを前期末、後期末に実施予定。)	・就職活動等の指導を通じ、社会で通用する礼儀・マナーの修得に重点的に取り組んだ。年度当初に比べるとあいさつができるようにはなっているが、引き続きの指導が必要である。個々の生徒の意識の向上がみられることから、卒業に向けて継続して指導の充実を図りたい。	B	＜年次アンケート＞(肯定的回答) 「授業前後できちんと挨拶ができた」前期末 後期末 →68.4% →75.9% 「これまでに比べて授業でわかることが増えている」→82.4% →88.9% 「社会に出て通用する礼儀・マナーが身についた」→91.2% →92.6% 1項目は達成できなかったものの全体的に肯定的意見が増えている。	B	・礼儀やマナーを2年次の頃から重点的に取り組んだ結果として礼儀・マナーが身についたと自覚している生徒が9割を越えた。あいさつに関しては目標に届かなかったため、どのような指導が効果的なのか今一度検討する必要がある。
	4年次	・自己管理力を高め、社会に通じる力を身に付ける。	・全員が目標単位を取得し、卒業見込みの生徒は、卒業を目指す。	・生徒ひとりひとりの個別面談や家庭との連携により、個に応じた学校生活を送ることができている。引き続き、それぞれの目標の達成を目指し、指導の充実を図りたい。	B	・全員が目標単位を取得し、卒業見込みの生徒は全員(3名)が卒業単位数を取得することができた。	A	・引き続き、個別に進路実現の支援を行う。社会とつながりにくい生徒は、教育相談室やSCと連携することが必要である。

2	進路課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業社会と人間、インターンシップ、企業研究などを通して、進路意識を高め、生徒一人ひとりの適性に合った進路指導を実践する。</li> <li>・各年次と連携し、キャリアパスポートを活用した継続的なキャリア教育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業見込生徒のうち、就職希望者と進路希望者が100%進路決定して卒業できるようにする。</li> <li>・インターンシップに参加した生徒の85%以上が満足し、進路意識が高まる。(インターンシップアンケートにより検証)</li> <li>・進路希望調査で「未定」と答える生徒の数を20%以下にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業見込み生徒のほとんどが、応募前職場見学やオープンキャンパス参加などに積極的に参加できた。就職1次の応募に書類、8割程度が内定をいただいた。また進学についてもAO、総合型選抜に書類結果待ちの状況である。</li> <li>・2年次のインターンシップと1年次の企業見学は中止となったため、今後の進路行事などでの意識付けが必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業見込み生徒のうち、進学希望者は100%進学先が決定した。就職希望者が採用試験の受験や応募前職場見学の活動を開始するため、就職内定率は87%である。</li> <li>・1・2年次の進路未定の生徒は25%程度いる。インターンシップや企業見学など行事ができなかったため、進路の選択が難しいのではないかと。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職は3月末までに全員が内定するかどうか難しいが最後まで支援していきたい。また、特に2年次は進級までには、方向性が見つかるように指導したい。</li> </ul>
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップなどの学校行事に主体的に参加し、進路実現に必要な力をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ参加率を90%以上にする。</li> <li>・自分の進路実現に向けて、意欲的にチャレンジしている。⇒年次アンケートで肯定的回答を70%以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任面談の中で各クラスともに進路に関する内容を話をしている。進路希望が明確な生徒もいるが、多くははっきりとした目標が定まっていない。今後の進路ガイダンスなどの行事を通じて進路意識を高めていきたい。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;年次アンケート&gt; (肯定的回答)</li> <li>「自分の進路実現に向けて、意欲的にチャレンジしている」→46%</li> <li>「自分の進路目標(夢)ははっきりしている」→57%</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を持ち準備を進めている生徒数がおおよそ半数くらいである。インターンシップは中止になったが、進路ガイダンスは実施できたため進路について考えるきっかけ作りはできた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の卒業後の進路をはっきり言える生徒がいる一方、何をしたいかわからないという生徒も多い。次年度も個々の生徒の適性や希望を見極めて進路選択を援助していきたい。</li> </ul>
	3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識を高め、企業研究等を通して進路実現に必要な力をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業見込み生徒(68名)のうち、進路決定をした生徒の割合を85%以上とする。</li> <li>・年次会議等で生徒情報を共有し、進路課と連携し、生徒一人ひとりに適した支援を行う。</li> <li>・自分の進路実現にむけて、意欲的にチャレンジしている。⇒年次アンケートにて肯定的回答を70%以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接練習予定日が休校になり、面接回数の確保が難しくなったが、何とか時間を捻出し、最低限の面接回数は確保できた。また、そのように限られた時間ではあったが、生徒は一生懸命に取り組むことができた。進路に関しては逐一情報共有をし、個々にあった進路先を提案できるように相談できた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の進路が完全未定者は6名。</li> <li>・卒業見込み生徒は6名のため約90%が進路決定できた。</li> <li>&lt;年次アンケート&gt; (肯定的回答) 前期末 後期末</li> <li>「自分の進路実現に向けて意欲的にチャレンジしている」→79% →77.7%</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を達成することができた。数値が後期末に下がっているのは、前期末が試験の前後で最も気持ちが高まっていたためと推察される。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な影響により、予定していたことがなかなかできていない学年ではあるが、生徒がそのような限られた中でも一生懸命に活動をして大多数が望む進路に進むことができた。</li> </ul>
3	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動を通じて集団や社会の一員としてより良い学校生活づくりに参加することにより自主的、実践的な態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員が自主的に文化祭企画・立案、実施できる力を養い、集団への所属感や連帯感を深める。</li> <li>・各種委員会活動(8委員会)を年間複数回活動して、学校の一員としての役割や責任を果たそうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20名が生徒会役員として活動している。文化祭に向けてそれぞれ分担した役割を果たしている。</li> <li>図書委員会・・・保健だよりの発行・トイレ掃除 など</li> <li>図書委員会・・・図書委員会イベント計画・文化祭展示準備</li> <li>美化委員会・・・教室・校内外の清掃活動</li> <li>進路委員会・・・進学関係掲示物の管理</li> <li>交通委員会・・・自転車鑑札確認・自転車置き場管理</li> <li>体育委員会・・・体育授業補助・スポーツ大会補助</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会や図書委員会・美化委員会は例年活発に活動ができた。他の委員会も活動は徐々に増加している。</li> <li>・生徒会活動は学校行事の他にも、総合学科研修会への参加や高梁川流域未来人材育成行事への参加などリーダーシップの育成に力を注いでいる。</li> <li>・部活動では、春季大会で陸上競技部、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部が優勝することができた。コロナ感染症対策のため全国大会は不参加となった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動を全ての委員会でさらに活動を増加していきたい。各委員会で花等を育て校内の美化等に役立つようにしたい。</li> </ul>
4	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いやりを持った行動ができ、他者のために積極的に活動ができる生徒を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校自己評価アンケート(生徒)「ボランティア活動等の体験学習に積極的に参加できている生徒が増えている」⇒肯定的回答を70%(昨年度68%)以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策の影響をうけて、ボランティアの募集が激減している。</li> <li>・校内外の清掃活動やプラントナーへの花植えなどの活動をしている。</li> <li>・今後も募集が増える見込みは少ないが、可能な活動を見つけていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染症対策の影響でボランティアの募集は激減しており、活躍する場が少ない。校内で美化活動や花を栽培して近隣の団体への寄付活動など、できることを見つけながら活動した。</li> <li>&lt;学校自己評価アンケート&gt; (肯定的回答)</li> <li>(生徒)「ボランティア活動等の体験学習に積極的に参加できるようになっている」→63%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動できることを模索して生徒に積極的にアピールしていく。</li> </ul>
	厚生課	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健指導により、心身ともに健全な生活習慣を身に付けさせるとともに、主体的に心と体の健康を守るうとする意識を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームルーム活動や委員会活動を通じて、主体的に心と体の健康を守ろうとする態度を育てる。</li> <li>・心と体の健康についてのアンケートを実施⇒肯定的回答を70%以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームルーム活動や委員会活動などあらゆる機会を通じて、手洗い、うがい、マスクの着用など、感染症対策の指導をしているが、厳守できていない生徒がいる。クラスターが起きないように、今後とも指導の強化をしていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の協力により、教室や階段の手すりなどの消毒、授業中の換気、ホームルーム活動や委員会活動を通じての、手洗い、うがい、マスクの着用などの指導等、感染症対策をしてきた。まだまだ不十分なところはあるが、生徒に感染症に対する意識は育ってきたと思われる。今後とも、クラスターが起きないように、指導の強化を図っていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの変異株により、より一層クラスターの危険性が増してきている。今後とも、あらゆる機会を通じて感染症対策をしていきたい。</li> </ul>
	教育相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスキルトレーニングや「UP!」を通して、好ましい人間関係を形成する。</li> <li>・生徒の個々の悩みや問題に対して、外部機関と繋げ、安心して過ごせる学校生活を実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングウィークやアンケートを通して、自己分析力を高めさせる。</li> <li>・ライフスキルトレーニングを活用し、コミュニケーション力を身に付けさせる。</li> <li>・夜間部では学校設定科目「UP!」を通して、社会的スキルを育成する。</li> <li>・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部機関と連携し、好ましい人間関係作りや学校生活を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策の影響で、コミュニケーショントレーニングはやりにくい状況だったが、キャリアパスポートを使って自己分析をする時間は多く取れた。</li> <li>・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに繋げる事例が多かった。外部機関の力を借りながら支援をしていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染症対策の影響で、コミュニケーショントレーニングはやりにくい状況だったが、各年次とも工夫しながら活動を行い成果を上げた。</li> <li>・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに繋げる事例が多かった。</li> <li>&lt;学校自己評価アンケート&gt; (肯定的回答)</li> <li>(生徒)「困ったとき先生に相談すると、ていねいにに応じてくれる。」→76%(昨年度比3%減)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも取り組めるコミュニケーショントレーニングの教材を検討する。</li> </ul>
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス活動や授業を通して、好ましい人間関係を形成できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR活動・ボランティア活動を通して、よりよい人間関係を形成する。</li> <li>・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を通して、「コミュニケーション能力」を伸ばす。⇒年次アンケートにて肯定的回答を70%以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でコミュニケーショントレーニングを行ったが、成果は見えにくい状況である。クラスを超えた行事が制限されているが、今後少しずつでも個々の力を伸ばせるように働きかけていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動は実施できなかったが、特に総合的な探究の時間を通してコミュニケーショントレーニングを行った。感染症対策で制限はあったものの、グループ活動に意欲的に取り組む生徒が多く、効果は大きかった。</li> <li>&lt;年次アンケート&gt; (肯定的回答)</li> <li>「中学校時代に比べてコミュニケーション能力がついている」→84.7%</li> <li>→86.4%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は制限のある中での実施であり、クラスを超えてのグループ活動が出来なかった。来年度以降もコミュニケーション力をつけるための活動を工夫して実施していきたい。</li> </ul>
5	教務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動の充実</li> <li>・教育課程の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翔南だより、ホームページなどを通して、本校の特色や活動を地域に発信する。</li> <li>・新学習指導要領を視野に入れた、魅力ある教育課程を編成し、中学生・保護者に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「翔南だより」や「ホームページ」等を通し、本校の活動を発信できた。</li> <li>・新教育課程については、実施に向け準備を進めている。</li> <li>・8月のオープンスクールは10月に延期となった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「翔南だより」は5号発行した。また、ホームページ等を通し、本校の活動を発信できた。</li> <li>・来年度からの新教育課程については準備ができています。</li> <li>・オープンスクールに代わり、10月に進路説明会を実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程の変更点なども含め、さらに積極的に情報を発信していく。</li> </ul>

\* 学校自己評価アンケート 質問項目⇒今年度目標値(昨年度数値)